



教育相談を通して 思うこと・・・願い



今年度、本校は創立130周年を迎えました。この長い歴史の中で『教育相談』が始まった時期は定かではありませんが、本校を開設した永洞先生等盲人の方の想いや、これまで本校が存在し続けた意味を考えると、早い時期から『相談』は存在し、大事な役割を担ってきたのだと思います。その中で、盲学校ならではの相談として、中途障害による成人の方の相談があります。

これまで、“目”のことで困ったことがなかったのに、病気等がきっかけとなり、徐々に「見えなくなってきた」「わかりづらい。」等情報が捉えにくくなったり、眼の状態が悪くなったりします。以前との違いを感じれば感じるほど、認めたくない思いと不安感や焦燥感が強くなってきます。また、生活状況が一変します。このような状況の中で、相談担当者として、今、そして今後何が必要なのか、何ができるのかということ、本人と、またその家族等と考えていくことが必要です。今年度の成人の方の相談は10名ほどでした。相談内容は、様々です。30代で急に視力が低下し視野も狭くなり眼疾患を宣告されたケース、40代で、眼疾患もあり、視野も狭くなってきたが、視力がまだあるということで手帳を取得できず、福祉サービスや周囲の理解が思うように受けられず困っているケース、60代で本を読むことが難しくなったので、代替はあるのかというケース、70代で一人での移動が難しくなったので、白杖は使えるのか、使えらしたらどうなのがいいのかというケース等一人一人状況は異なりますが、どの方達も不安感や先が見えない恐怖感と闘っています。今まで事務職やサービス職等で仕事をしてきた方が、「仕事ができなくなる。」ことや「家族の負担になる」等様々な思いが交錯し気持ちが不安定になります。そのような気持ちと向き合いながら、どのような支援ができるのか、ただの情報提供で終わるのではなく、何が、その方にとって必要なのか、できるのかを考えていくことが必要です。一方的な相談ではなく、本人やその家族の気持ちに寄り添い、進めていくことが大切です。その為には、様々な関係機関との協力・連携も重要です。

相談を進めていく中で、嬉しいこともあります。昨年8月、以前来談した方の家族から連絡がありました。その方は50代で、建築関係の仕事を熱心にこなしてきた方でしたが、眼疾患になり、仕事ができなくなりました。病院の紹介で本校の相談に繋がりました。家族と一緒に来談した当時は、自暴自棄でしたが…病院と家族の支えもあり、3年後、A視力障害者センターへ入所し、新たなスタートを切るという報告でした。このように時間を掛け、障害を受容していくケースもあります。でも、ほとんどはまだまだその途中で悩み、もがいているケースが多いと思われます。

人生の半ばで状況は変わってしまっても、新たな価値観や幸福感、そして生きがいを見出せるように、また、よりよく生きようとする気持ちや姿を、これからも支援していきたいと思えます。

みんながそれぞれの『Quality Of Life』を送れることを願っています。

三八地区特別支援連携協議会 今年度の活動について

三八地区特別支援連携協議会は、発達障害を含む全ての障害のある幼児児童生徒とその保護者に対する教育相談を含め、特別支援学校の地域における特別支援教育のセンター的機能を活用し、教育、医療、保健、福祉の関係機関が連携し、一貫した支援体制のさらなる充実を図ることを目的としています。今年度は、コロナ禍のために実施できない活動もありましたが、たくさんの関係機関の協力の下、1年間の活動を無事に終えることができました。主な活動2つを紹介します。

三八地区特別支援連携協議会（本会）

現在の連携機関は41機関です。この連携機関が一堂に集まり顔合わせや情報交換などを行う年2回の本会ですが、今年度は残念ながら1回だけの開催となりました。6月に開設したばかりの八戸市総合保健センターを会場に、11月26日（木）に開催することができました。

情報提供では、「八戸市総合保健センターの取組について」のお話を、八戸市保健所健康づくり推進課山村母子保健グループリーダーと八戸市こども支援センター佐藤指導主事よりいただきました。会終了後には、八戸市総合保健センターの乳幼児健診のエリアやこども支援センターの相談室などの施設見学を、希望者にさせていただきました。八戸市で取り組んでいる保健と教育等の連携について、改めて重要性を感じました。

もう一つの情報提供として、「青森県作業療法士会の取組について」を青森県立あすなろ療育福祉センター秋元作業療法士とはまなす医療療育センター橋本作業療法士からお話いただきました。作業療法士の視点からみた特別支援教育の手法を知ることができ、大変好評でした。

個別の教育支援計画等の活用に関する研修会（三八地区）



これは県の重点事業「令和2年度地域における特別支援教育相談体制強化事業」の一環で、県内地区連協ごとに企画運営しています。通常の学級における個別の教育支援計画及び個別の指導計画の活用に関する情報を提供することで、作成率の向上と引継ぎ等における関係機関との連携の強化に資することを目的としています。

今年度は三八地区高等学校及び三戸郡内の小・中学校の先生方を対象に、南部町総合保健福祉センターゆとりあを会場に、12月25日（金）に開催しました。三戸町立三戸中学校花田教諭と、青森県立八戸中央高等学校村井教諭、野田教諭に、各校の実践発表をしていただき、その後に、三八教育事務所今田指導主事より講演いただきました。来年度は、三八地区高等学校と八戸市内小・中学校の先生方を対象に計画する予定です。（文責：吉田）

今年度も、相談支援センターにたくさんのご協力をいただき、ありがとうございました。来年度も引き続き、みなさまのお力添えをいただき、活動を進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。